小学校国語　第４・５・６学年

各学年共通した課題		文章全体の構成を正しく捉え、要旨を把握する力	
学年	設問	設問のねらいと問題の概要	正答率(%)
4	大問４の2 ⑭	○ 段落相互の関係に着目しながら、文章の構造や内容を把握する力	52.5
5	大問４の2 ⑭	○ 文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力	12.6
6	大問４の４ ⑯	○ 事実と意見などの関係を叙述を基に押さえ、要旨を把握する力	59.9

【復習のポイント】 ～小学校第4･5･6学年の皆さんへ～

各学年とも、次のような点が課題となっています。

- ○ 語句と語句、文と文がどのような関係なのかを読み取ること。
- ○ 各段落が、どのような役割や内容（事実、意見など）を表しているのかを読み取ること。
- ○ 筆者が言いたいことは、どのようなことか、それは、どこに書かれているのかを読み取ること。
- ○ 文章中の言葉や自分の言葉で、筆者の言いたいことを簡潔に書くこと。

【チャレンジ問題】これらのことが、できるようになるための力を、次の問題で試してみよう。

① 「だから」を使って二つの文に分けましょう。

> 新しく放送委員になった5年生は、放送機材の使い方が分からなくて、不安そうにしていたので、ぼくは、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

『小学生のための言葉の確認ノート』より

② 次は、読書のことについて書かれた新聞の**【コラム】**（筆者自身の思いや考えなどを述べた短い記事）です。この**【コラム】**は、全体の内容が**１**から**５**までのまとまりに分かれています。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【コラム】

1▼四月二十三日は「子ども読書の日」。世界では「世界本の日」とも呼ばれている。本とその作者たちを敬うとともに、読書の楽しみを味わう日である。**2**▼子供のころ、宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』に夢中になった。楽団の中で、一番へたなセロ弾きであるゴーシュが、動物たちとの出会いを通して成長していく様子に心がおどった。**3**▼ある作家の言葉に、「読書というものは、その時その時によって読みの味わいがちがう」というものがある。子供時代に読んだ本を大人になって読み返すと、また別の楽しみが味わえるものだ。**4**▼先日、『セロ弾きのゴーシュ』を再び読んだ。当時は気付かなかった人物の見事なえがき方やたくみな描写[※1]に、賢治のすばらしさを実感した。**5**▼世界の人々が本について考える日。子供はもちろん、かつて子供であった大人も童心[※2]に返って本を楽しむ。そんなひとときもよいものだ。

記事の中の▼は、まとまりを表す印です。

問　筆者は、「子ども読書の日」について、自分の読書体験を交えながら書いています。その体験が書かれているまとまりを、**【コラム】**の中の**１**から**５**までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

『令和７年度第２回アセスメント問題』より

【チャレンジ問題】の答え

① 新しく放送委員になった5年生は、放送機材の使い方が分からなくて不安そうにしていた。だから、ぼくは、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

※ 主語と述語との関係や、文と文の関係に気付くことは、正確な読み取りの基礎となります。

② 2、4

※ 段落の内容を理解し、事実と意見に分けて読み取ることは、要旨を捉える基礎となります。